

講義名	経営情報分析		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	木村 敏夫		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	31057

主題と概要

経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下す、ことを講義目標とする。

経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益・経常利益・総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数〔関数組合〕、線形計画、What-if分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法〔事業（事業の集合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）〕を学ぶ。

到達目標

企業の事業活動に関連して（定量・定性）「情報」（資料）、を主に、表計算（MS-Excel）の統計・財務・論理等の関数、分析ツール、ソルバー、What-ifを使用して数理的な処理を行い、回帰分析・時系列分析等を行い、加工し、評価し、企業の次年度予測値（見積損益計算書等に集約）等の資料を作成し、これに一定の結論を下す。

提出課題

講義時間内で毎回の課題（13から14回）を予定している。

評価の基準

出席（50％）と課題提出（50％）で評価する。但し、1）出席と2）提出回数の双方を2/3を越えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、講義中以外は認めない。

履修にあたっての注意・助言他

学修には経営、財務、会計、統計、表計算（MS-EXCEL）の知識が前提となっている。単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自ら、作業などをやらなければ結果はでないと考えてもらいたい。

教科書

プリント資料及び参考文献

課題はポータルに開示する。処理方法の考え方はプリントを配布する。

授業計画

- 第1講 データ蒐集と分類
- 第2講 資本調達、返済計画と利率計算
- 第3講 資本調達、返済計画と利率計算
- 第4講 相関・回帰分析と予測
- 第5講 相関・回帰分析と予測
- 第6講 相関・回帰分析と予測
- 第7講 最適資源配分
- 第8講 最適資源配分
- 第9講 最適資源配分
- 第10講 財務情報と損益分岐点
- 第11講 販売価格、費用分解と費用削減
- 第12講 シナリオ登録と損益分岐情報
- 第13講 時系列、トレンド予測
- 第14講 ポートフォリオ：確率、分散不確実性下の投資決定計算
- 第15講 情報の検定

予習・復習

当然のことです。

備考

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。